

教団新報

定 価 1部 144円(本体 133円+共 206円)
予約購読料 1年分 5,150円
紙代のみ 3,600円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
一時移転先 169-0072 東京都新宿区大久保 1-7-18
電話 03(3202)0546、FAX03(3207)3918
URL http://uccj.org
発行人 長 崎 哲 夫
編集主筆 渡 邊 義 彦
印刷所 株式会社きかんし



宣教協力団体としての連帯福音宣教会



シュトゥットガルト・EMS 本部 (写真:EMS・Karasch 氏)

世界宣教委員長・上尾合同教会牧師 秋山 徹

多様な世界宣教の遺産を引き継いで

「連帯福音宣教会 E M S "Solidarity" として新
しい出発をした。
E M S には、ドイツとス
イスの 200 年間にわたる
豊かな、そして多様な世界
宣教の遺産を引き継がれて
いる。ガーナや南アフリカ
ナイジェリアなどアフリカ
の諸国、レバノンやパレス
チナなど中近東、インド、
インドネシアなど東南アジ
ア、韓国、日本の東アジア、
南米などの教会が含まれて
いるが、これまで長年続け
られた一方的な援助・被援
助の関係から、平等な議決
権と規模に応じた負担金の
負担と宣教計画によって、
新しい宣教の連帯の体制と
なってきた。

2012 年に 23 の教会
(教団)と 5 つの宣教団体
とによって、新しい名前を
採択し、「連帯福音宣教会
"Evangelical Mission

このグローバルな多彩な
宣教の課題を抱えた教会の
交わりの中で、福音の伝道
教育、奉仕、貧困との戦い、

私は、2015 年 1 月 31
日から 7 月 31 日まで日本基
督教団世界宣教委員会を通
じて、ドイツの連帯福音宣

かつて「宣教師」として
ヨーロッパの諸国からアジ
アやアフリカに送り出され
ていた形は、今は宣教協力
者「エキュメニカル・コー
ワーカー」として一方的な
派遣の形ではなく、北と南
の各国の教会間の相互の人
的交流だけでなく南と南の
教会間の交流プログラムも

エキュメニカルユース ボランティアプログラム

参加報告

教会 (E M S) が主催する
エキュメニカル・ユース・
ボランティア・プログラム
に参加してきました。
このボランティアでは、
半年間ドイツでホームステ
イをさせてもらい、教会や
その付帯施設などでワーク
をし、ドイツのキリスト教
や、文化、言語について知
る、ということが狙いとさ
れていました。

私は、6 ヶ月間カールス
ルーエという街で主に牧師
の家庭でホームステイをさ
せてもらい、教会付属の保
育園でワークをするという
生活をしてきました。保育
園では主に 1 歳から 3 歳前
半の子どものためのクラスで
お世話になりました。初め
のうちは、言葉や、子ども
との距離感、先生とのコミ
ュニケーションなどに苦労
しましたが、多くの方にと
てもよくしていただいて、
楽しく子どもたちと遊び、
たくさん学びを得ることが
できました。

また、私たちの生活は、
主にそれぞれのステイ先で
のボランティアワークでし
たが、6 ヶ月の間には 3 回
のセミナーなどでボランテ
ア同士、交流し、お互いの
経験を分かち合うときも
ありました。

今回のボランティアで
は、ただドイツの文化など
を学ぶだけではなく、ほか
の人との「違い」をどのよ
うに受け入れていくかとい
うことも学ぶことができ、
とても充実した 6 ヶ月間と
なりました。

(佐藤留緒記報／
郡山教会員)



ボランティア仲間と (写真:筆者)

すべての者の僕になるよ
う、主は仰った。下の者で
も、上の者でも自己主張、
自己保身に陥るなら御言葉
の前に自らを省みなければ
ならない。「さいたま」グ
ループ、活躍が楽しみです。

はかられ、また特に、エキ
ュメニカル・ユース・ボラ
ンティアや国際的な女性の
交流の機会などが盛んに行
われてきている。日本でも
京都での宗教間対話や部落
解放センターへの援助など
が長年にわたって続けられ
てきた。

特に、東日本震災に際
して、いち早くドイツのピ
ュルテンブルク州教会から
1 億円の援助の申し出があ
ったが、これは E M S の仲
介によるものである。福島

を建て、難民となった子
どもの教育プログラムを立
ち上げている。これには教
団からの献金も大きく貢献
している。緊急の災害や戦
禍のもとにある人々や難民
への援助活動も行っている
のである。

E M S の本部はドイツの
シュトゥットガルトにある
が、2 年に 1 度開かれる総
会、また、決議機関として
「ミッション・カウンスル」
がある。ドイツやスイスの
代表者のほか、アジア、ア
フリカなどの地域と性別の
バランスを考慮した 17 名が
選ばれ、東アジア代表の一
人として私も選ばれている
ので、年 2 回開かれる会議
に出席し、E M S の活動全
般について責任を負ってい
る。

わたしたちの教団が「一
つの、聖なる、公同のも、使
徒的な教会」に連なってい
ることの具体的な表れとし
て、この E M S との絆を持
っていることを多くの人に
覚えてもらいたいと思う。
キリストの体の生きた「連
帯」に加わるために、特に
若い世代の人々が E M S の
門戸と絆を通して、世界の
教会を経験する機会となる
ことを願っている。



年に数回、
幼稚園の各ク
ラスで子供た
ちのグループ
をシャッフル
し組み替え
る。小さい年齢のクラスで
は組み合わせを教師が考え
るが、年上のクラスになる
と子供同士話し合いグルー
プ分けをし、それぞれ名前
を付ける。▼ここで新しく
なったグループ名は「どん
ぼ」町中の園庭にも飛んで
くることがある、「つみぎ」
子供たちに身近な遊具だ、
「にじ」ノアの物語を覚え
ているだろうか、「クリスマ
ス」降誕劇の準備もはじま
る、「プレゼント」楽しみ
にしているのだろうか、「ハム
スター」飼っている子がい
るのだろうか、「さいたま」
? 何故「さいたま」
と付けたのか訊ねると「東
京より上だからだ」(?)
と言うのである。▼大きな
日本地図がクラスルームに
貼ってある。子供たちはこ
れを見て東京の上は埼玉だ
となったと言う。栃木も、
群馬、茨城も、北海道だっ
てあるし、そもそも地図上
では北が上でも、実際は上
だ、下だと言ったことでは
ないのだが。確かに直近の
新報紙面でもノベル賞受
賞者夫人出身幼稚園などで
埼玉が沸いたことはある。
▼一番上になりたい者は、
すべての者の僕になるよ
う、主は仰った。下の者で
も、上の者でも自己主張、
自己保身に陥るなら御言葉
の前に自らを省みなければ
ならない。「さいたま」グ
ループ、活躍が楽しみです。

▼救援対策本部会議▲

「国際青年平和会議」開催計画を報告

10月6日に教団救援対策本部第8回（通算第42回）会議を、11月12日に同第9回（同第43回）会議を、教団会議室にて開催した。

まず募金については、10月末現在で、全国募金（本年3月末日で終了した国内募金）が10億1648万4627円（募金終了後の献金額は1119万7713円）、海外からの献金は4億286万6286円（同1661万1761円）となっており、等々の報告がなされた。

救援対策室からは、会堂・牧師館再建復興貸付金返済状況確認、EMS等からの支援金受領、第19・20回ひつじキャンプ開催報告、ハートフル金石お茶っこサロン開催状況報告等を扱ったことの報告、および、救援対策本部会計報告がなされた。

▼在日韓国朝鮮人連帯特設委員会▲

マイノリティ国際会議へ委員派遣

東北教区からは、東北教区被災者支援センターエマオ（ボランティア活動など）「東北教区東日本大震災救済おまじな問題支援対策」の募金活動など、東北教区からの報告がなされた。

東北教区からは、東北教区被災者支援センターエマオ（ボランティア活動など）「東北教区東日本大震災救済おまじな問題支援対策」の募金活動など、東北教区からの報告がなされた。

東北教区からは、東北教区被災者支援センターエマオ（ボランティア活動など）「東北教区東日本大震災救済おまじな問題支援対策」の募金活動など、東北教区からの報告がなされた。

▼教師委員会▲

福島・宮城諸教会を問安

10月26・27日、教師委員会による被災地教師の問安を行った。

教師委員会では、被災地



献堂の成った中村教会にて地区教師会に参加

教師を支えるために、一度だけ海外募金を用いて人間ドックを受診する機会を設けた。その後、被災地教師への問安である。第37・38総会期では、原発事故が起った福島県（浜通り・中通り）の教師たちへの問安を行ってきたが、今回はさらに宮城県の石巻へと範囲を広げた。

福島県の問安は、今回は相双宮城南地区の教師会が新たに献堂した中村教会において開催されたのに合わせて、教師会に参加する形の問安となった。地区教師会には川上麻里（岩沼）、小松茂夫（角田）、佐々木

▼「障がい」を考える小委員会▲

16年10月全国交流会を開催

第2回「障がい」を考える小委員会が、10月26・27日に開催された。

26日は、社会福祉法人・神戸聖隷福祉事業団を訪問し、神戸聖生園（知的障害者就労継続支援B型、生活介護、神戸友生園（就労継続支援B型）、神戸愛生園（身体障害者入所支援、生

金」設置検討等の報告がなされた。

関東教区からは、水戸中央教会の建築工事状況、借入金返済が困難な教会のための関東教区内での募金計画等の報告がなされた。

その他、「国際青年平和会議 in 京都」（仮称）（2017年3月28・31日、関西セミナーハウスにて）開催計画、東日本大震災救援対策事業記録刊行委員会、教団救援対策活動の記録編集作業のための実務委員会報告、被災3教区幼児教育担当者による被災教会・施設訪問報告「東日本大震災救援対策本部ニュース」第18号発行等の報告がなされた。

17年3月28・31日、関西セミナーハウスにて）開催計画、東日本大震災救援対策事業記録刊行委員会、教団救援対策活動の記録編集作業のための実務委員会報告、被災3教区幼児教育担当者による被災教会・施設訪問報告「東日本大震災救援対策本部ニュース」第18号発行等の報告がなされた。

更に、9月8日に開催された教団・在日大韓基督教会歴史共同研究会、9月21・23日に開催された第39回日本カトリック「正義と平和」全国集会に小橋委員長が参加したことも報告された。

宮城県石巻では、石巻山城町教会のみとなったが、関川祐一郎教師夫妻を問安した。当日は会議があった中で、時間を割いて問安を受けてもらった。石巻山城町教会は小高い山の中腹にあるため津波被害はなかったが、関川教師は神学校卒業して赴任するときに震災があったこと、前任者の教師夫妻が4月中旬まで留まつて復旧に尽力したこと、教会として震災の記録集『東日本大震災記録』を作成したこと、震災後に揺るがない確かなものを求めて教会の近隣の方々が数名受

活動の見直しや、一本松幼稚園側庭園薄設置工事支援等について検討した。

次回会議は2016年1月22日、教団会議室にて開催する。

（雲然俊美報）

和」全国集会に小橋委員長が参加したことも報告された。

続いて、8月7日付で発表された「敗戦70年にあたって、日本キリスト教協議会（NCC）議長談話」の紹介があった。また、8月18・19日開催の「キリスト教主義学校人権教育セミナー」に参加した小橋委員長

洗したことや教会学校の再開など伝道の働きについて聞いた。

被災地には様々な必要があるが、教団としては被災地に求められる福音伝道をバックアップしてほしいとの言葉が心に響いた。

（大友英樹報）

クリスチャンである。利用者の霊的な求めから和神山の塩伝道所、神戸愛生伝道所が生まれた。各施設長、常任理事に「教会に望むことは？」という質問を向けると、次の答えが返ってきた。地域に支えられ存続する一方で、誤解や偏見による根強い反発も残

る。施設と地域の仲立ちになつてほしい。施設の歩みや抱える課題に「共感してほしい。法人がいかに歩むべきか迷うときにも「いつも傍らにいてほしい。言葉に教会への深い信頼を見る。現在十数名の協力牧師、教会がさまざまな形で関わり、キリストの息吹が吹き

障害者権利条約と、これに伴う障害者法の整備を受け、当事者、教会の視点から現状を考える。

本委員会ホームページの内容と「牧会者とその家族のための相談室」の設置については継続審議とした。最後に、全国交流会の関



神戸東部教会にて委員会

連で、①「障害者権利条約」、②「障害者法」について、それぞれ堀真知子委員長と森田恭一郎委員が発題し、委員同士の学びを深めた。次回委員会は、2016年4月11・12日、愛知教会で開催する。

（上竹裕子報）

【日本基督教団年鑑刊行のお知らせ】

このたび、日本基督教団年鑑2016年版を刊行いたしました。前年版以降の新たな情報を満載しておりますので、是非お買い求め下さい（定価3,600円＋税）。また、ご購入いただいた方には、是非アンケートハガキにお答えいただき、当年鑑についてのご感想やご意見をいただければ幸いです。来年3月に発行予定の追録をお送り致します。

なお、直接お買い求めの場合は事務局総務部までご連絡下さい（Tel 03-3202-0541、Fax 03-3207-3918、e-mail<somu-b@uccj.org>）。

2015 年 11 月

日本基督教団事務局総務部

社会事業奨励日メッセージ

東日本大震災から4年の月日が流れましたが、多くの課題・問題は山積しており、根本的解決には尚、多くの時間と祈りを要します。しかし、東日本大震災を覚え、被災された方々を覚えて、多くの祈りが捧げられてきました。

宗教法人、社会福祉法人、その他の法人立にもかかわらず、また、無認可のボランティアの皆様を覚えてもまた、祈りが捧げられてきました。そして祈りと共に、全国の諸教会から、多くの「日本基督教団東日本大震災救援募金」が捧げられました。世界中からの支援も募金もありました。深く感謝をいたします。

今年も12月第一主日の「キリスト教社会事業を覚えて祈る日」を迎えます。日本全国に働き人は遣わされています。「継続」が大事な福祉を、心を込めて続けようと努力する仲間がいます。東日本大震災からの復興に向けての動きの中で、心のこもった福祉を実践しよう心がけている仲間がいます。共に祈りを合わせて支えたいと思います。

日本における社会福祉の根拠となるものは、日本国憲法第25条です。(1)「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」。(2)「国は、すべての生活部面について、社会福祉、

社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない」。また、『福祉六法』と呼ばれる法が定められています。老人福祉法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、生活保護法、児童福祉法、母子及び寡婦福祉法です。それらに老人保険法と社会福祉法を加えて、『福祉八法』と呼ぶこともあり、憲法に基づいて社会福祉を支えるものとなっています。

社会福祉事業は、社会福祉法第2条で定められている事業のことを言いますが、その内容は多岐にわたり、細部にいたるまで触れられています。日本社会に社会福祉が体系的に入ってきたのはプロテスタントキリスト教が伝えられてからでした。また、心のこもった福祉を実践しよう心がけてきたのも、キリスト教社会事業でした。実際の働きがあります。キリスト教主義による歩みの「良い実」があります。これからも共に祈りを合わせて支えたいと思います。

2015年12月6日

第39総会期日本基督教団社会委員会

委員長 芳澤 信

伝道委員会

御言葉の生命を証しできるように 成田いうし

の友「信徒の友」文書伝道のため、日本基督教団教誨師会の働きのため、それぞれ委員を派遣している。

資金援助(貸出を含む)を行うことである。また教団出版局の「こころ」伝道委員会の使命は、我が国のプロテスタント伝道の現状を分析し、産業構造の変遷とともに伝道環境が変化してきた諸地域で将来、いかに伝道を前進できるか、

委員会コラム

「教区伝道委員長会」を主催する。

伝道委員会の使命は、我が国のプロテスタント伝道の現状を分析し、産業構造の変遷とともに伝道環境が変化してきた諸地域で将来、いかに伝道を前進できるか、

(伝道委員長)

PCTにて災害支援について ワークショップ

11月10日から13日まで台中市南山教育センターを会場にして、台湾基督教長老教会(以下PCT)とCouncil for World Mission(以下CWM)の共催「ACT Alliance(以下ACT)の後援」による「Emergency Preparedness and Response」(緊急支援を要する災害への備えと応答)と題するワークショップが開催された。参加者は34名でインド、台湾、マレーシア、韓国、日本に加え、ニュージーランド、トンガ王国、バヌアツ、パプアニューギニアなどの太平洋諸国から、海外教会とのコミュニケーションを担当する者が主であった。

会議はACT (Action by Churches Together)本部からの講師とCWMからの講師による講義と各教会の実際の災害対応例、聖書研究から組み立てられていた。教団事務局ではしばしばACTの名前は聞かぬが、その組織と働きについて時間をかけて紹介されたことは有益であった。特にその活動の根本に聖書の言葉があることが強調された。

講義の中では応答として小グループに分けられ、講師からの異なる質問に限られた時間で協力して回答することが求められた。聖書研究は3回、午前中に行われた。講師はトンガ王国出身でオーストラリアの大学で旧約聖書を教えていることから、列王記のエリヤや詩編137編を災害の観点から取り上げ、しかも南太平洋諸国の植民地化歴史なども交えながらの講義であったため興味深かった。勿論ただ聞くだけでなく、小グループに分かれてのディスカッションと発表の機会が与えられた。

2日目の午後はバスで1時間ほどの南投県竹山にある内政部消防署訓練センターに出かけた。ここは台湾全土から選りすぐられた消防士が1年間、あらゆる災害を想定した設備を用いて訓練を受ける施設である。そこで私たちは所長からまず映像で活動の紹介をされたが、驚くべきことに2009年の台風被害のNGOからの援助の代表として、PCTがいかに被災した原住民の代弁者となり支えた

なったかが紹介されたのであった。目的は同じキリストの体として共に痛みを覚え、連携して助け合う関係を作ることにある。(加藤 誠報)



CWM、ACT 共催・後援にて開催 (写真:PCT)

池田 鮮氏 (隠退教師)



12月16日逝去、88歳。

韓国籍生まれ。38年青山学院大学卒業。47年より早稲田教会を牧会し、日本基督教青年会同盟に務めた後、香港日本人フェロシップ、江古田教会を経て05年に隠退。遺族は娘・池田いずみさん。

大塚正行氏 (生駒伝道所担任教師)

14年12月逝去、53歳。93年大阪キリスト教短期大学卒業。同年より宮内、小阪、

米沢中央、西九条教会、生駒伝道所を牧会。

松本瑞江氏 (富士見台伝道所主任担任教師)

15年2月24日逝去、80歳。97年に大阪キリスト教短大神学専攻科卒業。98年に受允、同年より富士見台伝道所を牧会。遺族は娘・ピーターソン深雪さん。

清水 昭氏 (隠退教師)

15年10月4日逝去、88歳。兵庫県生まれ。55年同志社大学大学院卒業。同年より神戸多聞、兵庫、熊本草葉町、洛陽、ハワイのヌアヌ組合教会を経て、89年に隠退。遺族は息・清水肇さん。

鈴木昭吾氏 (隠退教師)

15年10月22日逝去、85歳。宮城県生まれ。56年関東学院大学基督教研究所卒業。57年より日ノ本、神戸聖愛、龍野、芦屋石園教会を経て、03年に隠退。遺族は息・鈴木義哉さん。

高崎裕士氏 (隠退教師)

15年11月8日逝去、84歳。韓国籍生まれ。61年関西学院大学卒業。65年より高砂、曽根、加古川東教会を経て、

事務局報

正教師転入

坂本兵部 (第4回常議員会承認)

教師異動

大阪相川 辞代 田主忠信

小月 辞代 藤村直子

〃 辞代 藤原 満

〃 就代 清田勝成

豊島岡 就代 阿佐光也

浦安 辞担 増尾善文

明治学院高校 就教 佐原光児

延岡使徒 就主 市来章三

小俣 就代 竹花基成

教師隠退

松永久和、渡辺敏雄、

山内一郎、日野長臣

教師退任

阿部昌弘、中尾 勉

隠退より復帰

市来章三

教会所在地変更

川崎戸手

〒212-0005 川崎

市幸区戸手3-8-12

教会所在地変更

93711

教会通信先変更

吐田郷

〒586-0013 河内長

野市同野町769アメニ

〒157-0130 川俣

川俣茂方

美作落合

〒719-3145 真庭

市西河内7-12 伴野隆

志方

伝道推進室発行

伝道トラクトをご活用ください

伝道推進室では、2015 年秋、新しいトラクト (メッセージ・山北宣久牧師) を作成しました。是非ご利用ください。

▼問い合わせ・申し込み

伝道推進室 (TEL 03-3202-0541)

教団ホームページから購入申込書のダウンロードができます。





この2年間は、会堂が与え

2011年3月11日(金) 14時46分。私たちを突如襲った東日本大震災は、未曾有の被害をもたらしました。私は当時、神学生でした。震災当日の夜、不安の中で、

主に贖われた人々は帰って来る。とこしえの喜びを先頭に立てて喜び歌いつつシオンに帰り着く。喜びと楽しみが彼らを迎え嘆きと悲しみは逃げ去る。

イザヤ書35章10節、2013年12月1日(日) 新会堂定礎式に与えられた言葉

伝道報告

伝道の

TOMOSHIBI ともしび

七十二人は喜んで帰って来て、こう言った。…イエスは言われた。「あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」

ルカによる福音書第10章17節～20節

この地にある教会としての歩み

伊勢崎教会伝道師 遠藤 尚幸

学生寮からニュースで流れる映像を見ていたことを思い出します。

比較的地震に強いと言われる群馬県もその影響は甚大でした。伊勢崎教会旧会堂は、震災後、屋根瓦の破損・剥離、内壁漆喰の離脱、支柱の傾きなどの被害を受けました。検査の結果、私たちは、74年間、この地に建ち続けた会堂を解体しなければならなくなりました。

震災の翌年11月、私たちは涙を流しながら、解体式を行いました。私たちにそのとき与えられていたみ心は、会堂建築に

歩め、というみ心でした。資金が十分にあったわけではありません。兄弟姉妹が祈り合い「新会堂建築献金」を始めました。その後神様の導きの中で、総工費の半分は、日本基督教団東日本大震災救援募金から支援を受けることが決定しました。残りの半分は、教団からの貸付金と自らの建築献金を用い支払うことになりました。2013年12月1日新会堂定礎式の日より新しい会堂での礼拝が始まりました。現在は、貸付金の返済をしつつ、伝道の歩みを続けております。

この2年間は、会堂が与えられたことに感謝し、教会員の方々と共に、毎週の礼拝を大切に歩んで来ました。2年間の間に、何年かぶりに伝道集会を行うこともできました。地区の集会も、震災後久しぶりに、私たちの教会で行うことができました。先日、会堂が与えられて初めて、床のワックス掛けを皆で行いました。少しずつ、新会堂にも愛着が湧いてきたように感じます。本堂に、恵みに溢れた歩みを続けさせていた

られたことに感謝し、教会員の方々と共に、毎週の礼拝を大切に歩んで来ました。2年間の間に、何年かぶりに伝道集会を行うこともできました。地区の集会も、震災後久しぶりに、私たちの教会で行うことができました。先日、会堂が与えられて初めて、床のワックス掛けを皆で行いました。少しずつ、新会堂にも愛着が湧いてきたように感じます。本堂に、恵みに溢れた歩みを続けさせていた

部落解放沖縄キャラバン2015

教団部落解放センター主催「部落解放沖縄キャラバン2015」は「いちやうばちやうでー(一度会った皆兄弟姉妹)」をテーマに10月13日、22日、延べ335名の参加を得て開催した。

首里教会での出発式に始まり、通常の集会や礼拝での説教、そして志真志伝道所での完走式まで16回の集会を持った。教団以外にも沖縄バプテスト連盟、日本バプテスト連盟、聖公会、ローマ・カトリックそして真宗大谷派など宗派を超えて幅広い参加があった。

集会はまず、キャラバンメンバー(東谷誠・有住航・後藤慧)の自己紹介と趣旨説明に始まり、テーマソング「走れ幸せ者」や讃美歌を参加者と共に歌った。次に発題では、各メンバーが部落差別についてそれぞれの視点で作成したスライドを用いた。当初は一方的な伝達になりがちだったが、回を重ねる毎に参加者



からの応答を受ける余裕も出てきて、その後の質疑も含め非常に内容の濃い集会へと変化していった。集会の間には読谷村、辺野古、高江、石垣島、宮古島のフィールドワークを行った。読谷には沖縄戦末期、住民が逃れた2つのカマ(洞窟)がある。皇民化教育によって国に殉じるよう洗脳されていた時代、一方では開明的な人の説得で全員が助かり、もう一方では大半が集団自決へと追いこまれた。天皇を中心とする国体護持のため、差別され搾取にされてきた歴史である。また、辺野古や高江、宮古島では現在進行形で今基地が拡張強化されている。沖縄は再び「本土」防衛の要として虐げられ利用されようとしている。

(後藤 慧報)



種房正勝・惇子さん

東神大初、 夫妻で入学



正勝氏 1942 年生まれ。転居のため、大宮前教会、経堂北教会を経て銀座教会員。

第1の職業を終えてから、志を得て神学校に進む人は、珍しくなくなつた。だが、夫妻で同時に入学したのは東京神学大学で初めてで、今4年生。先ごろ共に修士課程に進む手続きを終えた。

70代となった2人が、神学校で学ぼうと思つたようになった切っ掛けは、転居のため06年、銀座教会に転入会し、6年後、同教会で行われる東神大夜間講座の案内を見たこと。正勝さんが「受講してみようか」と切り出すと、惇子さんが「前から考えていた」と応じて、2年間、熱心に学んだ。終了に差しかけた頃、正勝さんが「東神大で学んでみようか」と切り出すと、惇子さんは「ずっと前から同じ

ことを考えていた」と応じて、昨年、共に修士入学した。入学時、正勝さん72歳、同級生27人のうち、夫妻を含めて70代3人、60代1人。4人に1人が50代以上。より高年齢者は過去に存在したが、同学年で学ぶ夫婦は、東神大で初めてとなった。

東神大に学ぶようになって、何よりも驚いたのは、火曜から土曜、午前8時30分から午後5時40分までぎっしり授業があり、出欠は無論、宿題、レポートが絶えず与えられることだった。正勝さんは日本の商社に27年、米国の会社で17年勤務し、惇子さんも英語の辞書や研究書で知られた出版社に10年勤めて

いたから、共に英語には通じていたが、ギリシャ語には苦労したそう、ギリシャ語の活用表を張り出して、必死になって覚えたとか。

修士課程を終えると、夫妻とも70代半ばからの牧会となる。正勝さんは、「前半生は、利益を上げるという目標に向かって努力して来た。神学校への進学は、世俗のことを忘れて謙虚に生きようという闘いの信仰だった。そうした信仰を述べることで、多少なりとも意味のあるものなら」と語り、惇子さんは、「礼拝を守っている喜びを伝えられる分、かり易い説教をした」と抱負を述べた。

会堂の見回り

会堂や教育館の見回りを私は日課としている。夕方、他の教師が戸締まりと火の元を確認しているが、夜間の集会後や決まった時刻に私は教会内を見回るのである。もちろんもう一度戸締まりなどを見ることもあるが、教会の様なものに目を向ける機会としている。掲示板の内容、会堂の椅子の状況、忘れ物はないか、講壇の様子、週報ボックスや受付の状態、あらゆるものを見て歩く。そしてそこで多くのことに気づかせられるのである。高齢の方が多くなつた状況で、此処はこのままでよい

一つの物や部分、それを使ってきた時を思つて、そこに込められた教会員の信仰を受け取るのである。そして会堂や他の建物に備えられている素晴らしいものを日々に分で経験し、主に感謝を繰り返すのである。今日も一日導かれた感謝、明日もまたこの会堂や教育館が用いられる感謝、すべてを通して主の御体なる教会がそこに証される感謝。それらが溢れていく。見回りの時間は実に静かである。多くの教会員を思い、互いの祈りを重ねて、主を仰ぐ時となる。(教団総会副議長 佐々木美知夫)